

水害被災地支援を報告

総社市役所 AMDAと市職員



支援活動を報告する総社市とAMDAの職員

関東・東北水害の被災者支援で栃木県日光市などに派遣された総社市と国際医療ボランティアAMDA（本部岡山市）の職員計4

人による合同報告会が17日、総社市役所で開かれ、被災地での支援活動を説明した。

4人は総社市3人とAMDA1人。派遣要請を受けた日光市で、被災者ニーズに基づき衣類や携帯電話充電器などを避難所へ届けた。ボランティアが不足していると判断し、隣の鹿沼市も訪れ、民家に流れ込んだ土砂を撤去した。

総社市の藤原直樹総務課課長補佐(47)は「被災地では下着や肌寒さをしのぐ上着などの衣類が必要とされていた」、AMDAの田中俊祐さん(31)は「避難所でプライベート空間を守るのが難しく、避難者は不安が募っているように思えた」と述べた。

総社市は日光市と市長間の交流があり、12、14日にAMDAと合同で職員を派遣し

た。総社市とAMDAは2009年に連携協定を結んでいる。
(小野寺万由子)